

〈書 評〉

Gary A. Okamoto (ハワイ大学) 編著
上田 敏 (東京大学) 監訳

リハビリテーションの臨床実践 全人的マネージメントのためのマニュアル

木村彰男 (慶応義塾大学月が瀬リハビリテーションセンター)

一昔前に比べ最近ではリハビリテーション関係の本も、数多く出版されるようになってきている。しかしながら、なかなか実際の臨床に添った本を見付けるのは難しい。本書は訳者も序文で述べているように、とにかく実際面に役立つ教科書といえる。編著者のOkamoto先生は、先の第24回日本リハビリ医学学会にも来日されたばかりなので御承知の方も数多いことと思うが、現在ハワイで活躍中のアメリカにおける指導的なリハビリ専門医の一人であり、多方面に渡る膨大な量のリハビリに関する問題を、実に要領良くまとめ

られておられる。

全体は、障害総論・自立生活・技術と処置・障害各論の4部から構成されており、通読することによりリハビリ医学の全般的知識が身につけられるとともに、42章に分けられた各項目からは実際の臨床面での対応法が学べる。筋力低下、歩行障害、痙性など日常しばしば問題になる各種障害に対するアプローチはもとより、排便障害や性の障害など本邦では余り取り上げられないようなテーマについても解説がなされ、更にはバイオフィードバック、経皮的電気刺激法など最近の話題もそつなく取り

上げられている。特に各種疾患・障害の診断、評価ばかりでなく、薬物療法を含むそのマネージメントにも詳しく、各章の最後には必要最小限の基礎となる文献が紹介されており、リハビリ医学を志す初学者にはそれだけでも大いに参考になることと思われる。

難を言えば訳者も指摘しているように、付録として巻末に付いているものの、本文中に全くといって良いほど図表の無いことが挙げられる。しかしながら本書の内容の素晴らしさには変りがなく、レジデントにとっては正にベッドサイドでの必携の本であり、PT・OT・ST・ナースなどの各職種の方々にも是非一読するようにお勧めしたい本であることは間違い無い。

(A 5, 頁 288, 1987, ¥4,800, 医学書院サウンダース 刊)